

Closed Caption Video の利用法と その問題点

鈴木典子

I. Closed Caption Video の導入

Closed caption video は英語教育で映画を使う人にとって大きな福音である。

LL で映画を教材として取り上げることの意義については多くの人の認めるところであるが、これまでの映画は日本語の字幕がついているか、あるいは字幕なしかのいずれかであった。ここ数年前から closed caption のついた映画のビデオテープ及びビデオディスクが輸入され英語教育に新たな可能性をなげかけている。closed caption というのはアメリカでいまから10年位前に耳の不自由な人がビデオを見るために作られたもので、特別な方式で字幕がビデオ信号に挿入されていて、専用アダプターを通すことによって文字が画面に現われてくるというものである。それがここ4、5年前から、映画のビデオテープ及びビデオディスクにも closed caption つきのものがアメリカで作られるようになり、それが日本では英語教育に利用できるという事で、にわかに関心をあび、輸入量がぐっと増えてきている。closed caption を使うことにより、英語の字幕がつき、しかもこの字幕をスイッチひとつで出したり、消したり出来るという事だけでも英語教育上利用価値が十分あるのに、更に画期的なことに、専用のプリンターにつなぐと字幕の文字がそのままプリントアウトされる新しい機種が出現した。また更に字幕をパソコンに取り込み編集して練習問題などつくることができるようになった。

映画を教材として利用する時、これまで最も大変なのはスクリプトを準備することであった。なかなか市販のものは手に入らず、全くゼロから transcribe するのは大変な作業であった。それが字幕の英文が見る間に印刷されて出てくるのであるからこんなに素晴らしいことはない。しかし字幕は全部大文字であるし、台詞のすべてが字幕に出るわけではないので、やはり完全なスクリプトを作るにはかなりの労力を要するが、それでも初めからスクリプトをおこすことを思えばはるかに楽である。大文字を小文字に変換するのはパソコンの操作で可能となる。台詞の何割が字幕にでるか、それぞれ台詞の長さや速さによって違ってくるので一概に云えないが、台詞が総て字幕にでないということも使い方によっては有効に利用することができる。

II. Closed Caption の利用法

この closed caption をどのように利用することが出来るか、またその効果はどうであるかについて、映画 *Children of a Lesser God* (邦名『愛は静けさの中に』) を本学の LL2 のクラスで closed caption を使って教えてみたので、その報告をする。数多くある映画の中から、この映画を選んだ理由は、(1) 教室で学生と一緒に見るのに相応しい内容であること。(James Leeds という青年教師が聾啞学校に赴任し、熱心に lipreading (唇をよむこと) を教える。その学校の卒業生でいまは学校の掃除婦として働く、美しい少女 Sarah と出会う。この二人の言葉を持つ者と持たぬ者との愛の葛藤がテーマである。)(2) James が Sarah および生徒と話す時、手話を訳すので非常にゆっくり話す。一方校長および同僚と話す時は普通で話すので、学生に両方聞かせる事ができる。(3) 映画の長さが適当で、丁度半年で学べる。勿論、教材として作られたものではないので、きわどいシーンも時にはあるがそこは closed caption の威力を発揮させてさっと見せて次に進めることが出来る。

利用法

1. 大意把握を促したり、確認させる時

映画を教材として取り上げる時先ず大意を取らせる事が先決であるが、そのためには大意をとる助けとなるような質問を与えてから各シーンを見せ、その質問に答えさせる。答え合わせをする時、普通ならもう一度同じシーンを見せるわけだがここで caption 付き (英語の字幕つき) にして見せれば、面画と同時に台詞が目で確かめられる。例えばつぎのシーンは主人公の James Leeds が初めて聾啞学校で校長と面会する場面だが (引用-1), それを見せる前に以下のような質問 (質問-1) を与えておく。

(引用-1)

PRINCIPAL: This is the most amazing résumé I' ve ever seen.

JAMES: I've been with some of the really good schools, best.

PRIN. : All of them. All of the best. One bright after another.

You' ve also been with the Lucky Erin Bar and Grill ?

JAMES: Pittsburgh bartender.

PRIN. : And the disk jockey.

JAMES: Yeah, that was in Oklahoma, I used to broadcast in sign language.

PRIN. : You' ve been all over the map, Mr Leeds.

JANE : I've got a lot of energy.

PRIN. : I'm sure you do have a lot of energy, a lot of of new ideas. I did too, when.....
but nobody's trying to change the world around here..... just trying to help a
few deaf kids get along a little better. That's all. Everything else is razzle-
dazzle. Am I..... ah. Am I making myself clear?

JAMES: Yes, I believe that you are.

(質問一)

Tick the right answer.

They are talking about

1. Mr Leeds's résumé
2. Mr Leeds's family.

Mr Leeds has been to

1. the best school.
2. pretty good shools.

Mr Leeds used to

1. be a bartender in Pittsburgh.
2. broadcast in sign language.
3. make a map of the world.

The principal is

1. trying to change the world around him.
2. trying to help deaf kids get along a little better.

また或るシーンを見せたのち、そのシーンのブランク付き summary (質問一) を与えて、
ブランクを埋めさせ答え合わせした後、caption を付けてみれば内容を確認させることが出来る。

(質問二)

When Mr Leeds said, "the class (DISMISSED)," he tried to (TEST) if the students
can read (LIPS). (TONY) and (LYDIA) are good lip (READERS). Then he asked to
give them one good (EXAMPLE) why they should learn to (SPEAK). According to
Tony, they should learn to speak (TO) (PICK) (UP) hearing (GIRLS).

その他 true or false で内容を確認させた後とか、とにかく大意を取らせるような問題の答え合わせの確認に利用すると効果がある。同じ場面をただ繰り返し見せると、とかく飽きるが caption を見せることで学生の興味をひくというプラス・アルファも期待出来る。またこれは宿題としてよくだすのだが、次のように（質問一3）日本語の文章を与えそれに匹敵する英文を場面を見聞きしながら探させる。それも答え合わせに caption を見せ自己採点させると、学生は興味を示し大いに効果を発揮する。

（質問一3）

1. これは私がこれまで見たうちで最も素晴らしい履歴書だ。
2. 私の云う事、わかってもらえたかな。 etc.

2. Fill in the blanks の問題の扱い方

ブランクを埋めさせるというのは、映画などを教材にする時かならずと云っていいほどやらせる作業であるが、ここでは手話を訳してゆっくり話した箇所をブランクにして宿題として与え答え合わせのとき caption 付きでみせて自己採点させたが、ビデオテープを一時停止により静止画を出そうとすると字幕は消えるので何回もくり返して同じ場面を見せねばならず、それでいてあまり正確にミスは訂正されていなかった。しかし、学生に後でアンケートに答えさせたものによれば、「すぐ消える字幕を追うのは速読の練習になった」とか、「スリルがあって面白かった」とか caption を見ながらする作業に興味を示していることがわかる。静止画にした時字幕が消えてしまうという問題を解決する方法として、caption 付きにして複写し、英語字幕入りのビデオテープを作っておく事が考えられる。

3. 字幕に省略されている台詞の扱い方

台詞のすべてが字幕に現われない場合の利用法は、いろいろ考えられるが、プリンターで字幕を印刷したものを学生に持たせ、字幕にない部分を聞き取らせて transcribe させ、比較させる。同じような内容を伝えるのにこのように簡潔に云い直すことが出来るということを学ばせることは大変意味のあることだと思う。ただこの映画 (*Children of a Lesser God*) では健常者との会話しかこれらの字幕の省略がないのであまりこの種の練習ができなかった。学生の能力にもよるが、この種の練習が caption を利用する上で最も意義があるように思う。次の例は主人公が校長及び同僚にサラについて尋ねるシーンでの字幕の省略のある個所の引用である。大文字の部分はその前の括弧のなかの台詞の音声に代わって字幕にでた文字である。

(引用一2)

JAMES: Who is that?

ORIN : That's Sarah.

PRIN. : Never mind her. She is a pain in the ass. (She's always been a pain in the ass.)
(SHE IS ALWAYS BEEN ONE.)

JAMES: But I mean who is she? I mean what is she doing?

PRIN. : She works here. Orin. I've got an idea. How about the kids making pots holders
for Mother's Day?

ORIN : But they don't sell. (We've got hundreds left from last year.) (HUNDREDS
ARE LEFT FROM LAST YEAR.)

PRIN. : (You do.) (THERE ARE?)

ORIN : Sarah came here at five, too. We grew up together.

JAMES: Is she a teacher, too?

PRIN. : (She was one of the brightest students we'd ever had. (SHE WAS ONE OF
OUR BRIGHTEST STUDENTS.)

(Would you? Give me some of that, would you? (WOULD YOU GIVE ME
SOME OF THE WATER?)

4. 簡単にすませて次に進みたいシーンを扱う時

映画が長すぎたり、また場面によっては簡単にすませて次に進みたい時が往々にしてあるが、そのとき初めから caption 付きにしてみせれば、ざっとあらすじを追わせる事ができ便利である。

III. Closed Caption Video を導入する際の問題点

1. 字幕を果たして読んでいるだろうか

Caption 付き映画を使って教えてみて、その時の学生の反応からいろいろな問題点に気付いたが、中でも一番気になったのは学生は字幕の英文を果たしてどれくらい読んで理解に役立っているのだろうかということである。

そこで、本学がいつも参加している JACET の標準英語聴解力テストの成績が似かよっている一年生の二つのクラスを使って次のような実験を試みた。

実験 1

一つのクラスには字幕なしのシーン（前記「引用—1」参照）を二度見せ次の true/false の問題（Test—1）をさせる。次に fill in the blanks の問題（Test—2）をテープで音声のみ一回だけ聞かせ答えさせる。もう一つのクラスは字幕を付け同じ事をさせる。

(Test—1)

Listen to the conversation between Principal and Mr Leeds, then mark the following statements true (T) or false (F).

1. They are talking about Mr Leeds's family. ()
2. Mr Leeds has been to the best school. ()
3. Mr Leeds used to be a bartender in Pittsburgh. ()
4. Mr Leeds has got a lot of energy. ()
5. They are talking about Mr Leeds's résumé. ()
6. Mr Leeds used to broadcast in sign language. ()
7. Principal is trying to change the world around here. ()
8. Mr Leeds used to make a map of the world. ()
9. Mr Leeds understands what Principal said. ()
10. Mr Leeds used to work in Oklahoma. ()

(Test—2)

Listen to the tape and fill in the blanks.

PRIN. : This is the most amazing () I've ever seen.

JAMES: I've been with some of the really good schools, ().

PRIN. : All of them. All of the best. One bright after another.

You've also been with Lucky Erin Bar and Grill?

JAMES: Pittsburgh ().

PRIN. : And the ().

JAMES: Yeah, that was in Oklahoma, I used to broadcast in ().

PRIN. : You've been all over the (), Mr Leeds.

JAMES: I've got a lot of ().

PRIN. : I'm sure you do have a lot of (), a lot of ().

I did too, when..... but nobody's trying to change the world around here.....

Just trying to help a few () get along a little better. That's all.

Everything else is razzle-dazzle. Am I..... ah.. Am I making myself clear?

JAMES: I believe that you are.

その結果を(表一)に示す。JACET TEST のスコアによってA, B, Cと三つのグループにわけてそれぞれの平均点をほとんど等しくして(上限, 下限あわせて8人カット)二つのクラスの英語のヒヤリング能力がほぼ等しいと仮定した。

(表一)

	Caption なしのクラス			Caption 付きのクラス		
	JACET Test	Test 1	Test 2	JACET Test	Test 1	Test 2
A.	60.4	7.3	6.6	60.0	8.2	7.8
B.	39.0	7.9	5.9	39.0	8.2	8.2
C.	14.8	6.7	6.4	15.0	8.0	7.3
Av.	38.07	7.3	6.3	38.0	8.13	7.77

どのグループも caption 付きの方が高い得点となっている。統計上の有意差については(表一2)に示す通りF値が5%(1%)の値より大きければ有意差ありということで、ここで1%と5%の意味は有意差ありと結論した時の誤りの確率を表しているので、どのテストも1%で有意差があるので、字幕による得点の違いは大いにあると云える。

(表一2)

	F値	1%	5%
Test 1	8.4842	7.149	4.024
Test 2	9.5213	7.149	4.024

このテストの初めに映画のストーリーについては、殆ど触れずただ「新任の先生が校長にはじめて会うシーン」といっただけだったので“disk jockey”という単語が situation にふさわしくないで聞き取れなかった人がかなりあったとみえ“this”と書いてあるのが目についたのでその単語と、“deaf kids”についてどのくらい二つのグループで差が出ているか比較して見た。

(表一3)

	Caption なしのクラス	Caption 付きのクラス
<u>disk jockey</u>		
正解	0人	26人
this.....	13人	1人
ブランク	15人	3人

Caption なしのクラス		Caption 付きのクラス	
<u>deaf kids</u>			
正解	3人		14人
ブランク	6人		6人
def kids	3人	deaf だけ	7人
death	4人	deft kids	3人
dificates	6人		
その他のミス	8人		

まず“disk jockey”について見てみると、caption なしのクラスでは正解がゼロなのに対して caption 付きのクラスは26人もいる。また“this”と間違えた人は caption 付きではゼロである。このことから確かに字幕を読んでいる事が解る。また“deaf kids”については解答にばらつきがあって一口に云えないが“deft kids”のミス・スペリングを入れれば caption 付きクラスの正解が5倍以上になっているのでやはり字幕の文字は読んでいると云えよう。

2. 字幕が聞き取りの妨げにならないか

Children of a Lesser God を教えた二年のクラスで感想を書かせたところ、「字幕にばかり気を取られ聞くほうが疎かになった気がする」とか、「字幕に気を取られ、役者の表情とか動作を良く見てなかった」というのがあったが、これらの言葉が指摘しているように字幕が聞き取りの邪魔をしているのではないかというマイナスの要素も考慮に入れねばならないのではないかと思った。

そこで同じ一年生の二つのクラスに映画『哀愁』のあるシーンを二回ずつ見せ今度は質問は配らず、聞き取れた事を書かせた。

実験—2

次のように内容を八つに分け、どれだけ聞き取れたか項目の数をかぞえた。(1)~(8)までの数字はその箇所を一項目と数えたことを示す。(括弧のなかの台詞は字幕に出ていない。)

- | | | |
|---------------------------------------|---|-----|
| Are you Miss Lester? |) | |
| Yes. | | (1) |
| I'm Margaret Cronin, Roy's mother. |) | |
| I'm afraid I've kept you waiting. | | (2) |
| (I'm terribly sorry.) | | (3) |
| My train was (half an hour) (4) late. | | (5) |
| You know how it is (these days). | | (6) |

But I've come straight from Scotland (to keep this appointment). (7)

So I (do) hope you'll forgive me. (8)

その結果は caption なしのクラスで8項目中、平均1.63項目。caption 付きのクラスで3.4項目と出た。この数字は字幕ありのほうが二倍以上の事を聞き取ったことを示している。ここまでの結果では字幕ありのクラスが優勢だが、ここでもう一つ興味あるデータがでた。上のスクリプトで字幕にはでていない台詞の中から、“half an hour” という言葉を取り上げ比較してみる。Caption なしのグループで30分遅れたと答えた人は10人、1時間半と間違えた人を加えるとどれだけ待たされたかを聞き取った人は15人あるのに対して、caption 付きのクラスでは30分と聞き取れたのはわずか2人、1時間半と間違えた人が3人。それに対してただ遅れたということ聞き取れたのは caption なしでたった3人、caption 付きで23人。この数は文字は読んでいるが、それ以外の情報は caption 付きの場合聞き逃していると云うことを示唆しているのではなからうか。もちろん一つの例だけで結論を出す事は危険であるから、今後多くの事例について実験をする必要があろう。また、今回の実験は caption なしか、caption 付きかの二つのグループについてだけであったが、はじめ caption なしで見せ二度目に caption 付きを見せるという第三のグループを作って実験してみると何か有意義なデータが得られるかもしれない。

(映画『哀愁』の場合のF値は34.2097で1%の値7.149よりはるかに大きいので有意差ははっきり認められる。)

3. その他の問題点

(1) 字幕を見せるのに効果的な時期

二年生のアンケートでは、全員の学生が初回は字幕なしで見たい、と答えている。しかしこれは映画の難易度にもよるし、どのような見方をさせるかにもよるので初回は字幕なしの方がいいとは一概には云えない。*Children of a Lesser God* ぐらいの易しきで、しかも教室で少しずつ見ていくような場合には字幕は初回には見ないほうが良いと云うことである。その理由として、初めから文字に頼りたくない。判らない所だけ文字を見たい。等などと挙げているがもっともなことである。ただし、自習室などで出来るだけ多くのビデオを見せようと思うなら、初めから字幕つきで見せることになるであろう。

(2) 日本語字幕付きと英語字幕付きの利用法

日本語の字幕も見せ方によっては役に立つ。例えば、クラスの初めにその日にやる所を日本語の字幕つきで見せ大意を取らせてしまう。その後は字幕なしでいろいろな聞き取りの訓練をさせると非常にスムーズにいく。また、日本語の字幕は英語の字幕より普通の日本人には速く読める

ので、さっと読んでしまってから、あるいは読みながら英語を聞くことができる。そのとき意味は取れているので、英語を推察して聞き取ることができる。そのようにしてたくさんの映画を見る事は英語を聞き取る力をいつの間にかつげる事になる。戦後間もなく、今のようにテレビもビデオも何もなかった頃、映画館に通いつめて、英語力をつけた人の話しをよく聞く。

日本語の字幕つきで沢山映画を見るのと、英語の字幕つきで (closed caption としてではなく複写して)、あるいは open caption として市販されているものを利用して映画を沢山見るとどちらが英語の聞き取りの力がつくかも実験してみる必要がある。その際、聴覚型の人と、視覚型の人がいることも考慮に入れてその差を測定しなければならない。ちなみに、自習室のある大学の話しでは学生の人気は圧倒的に英語の字幕つき映画にあるそうである。

あとがき。 有意差の統計は本学、統計学の谷本 信先生のお世話になりました。
心より御礼申し上げます。